

# 美しい風

埼玉県 大竹瑞世

田舎に住もうと思ったのには、これと  
いつて深い考えがあったのではなく、と  
にかく広々とした場所を毎日を通こした  
い、と、それくらいの理由からであった。  
その点、海があり、山があり、平野があ  
り、上越市はかなり広々としている。た  
だ面積が大きいと言っただけではない。何  
かしら悠然としていて、その上に、古い  
歴史が香る佇まいもある。加えて、上杉  
謙信が好きだ、などという、失笑を買い  
そうだが、伝えられる謙信の人となり  
には、どうしても敬意を禁じえない。

が、何よりもこの地で思うのは、人が  
生きるためのもつとも大切な、食糧を生  
産する現場であり、そのために汗する  
人々がいる、と言う事である。農業にし  
る漁業にしろ、都市においては、日々その  
生活の中で、身近に感じることはいくら  
ののだが、ここには、目の前に広がる水田

があり、日本の美しい原風景と言われる、  
棚田がある。けれども、棚田の美しさは、  
雪に耐え、山間の地を、営々と耕し続け  
て来た人々の、不屈の努力の美しさなの  
だろうし、広がる水田の美しさも、幾世  
代もこの他に、稲を作り続けて来た人々  
が、あつてこそである。まして、雪深く、  
何ヶ月も作物を作ることのできなかつた  
土地では、農業の苦勞も、大変なもので  
あつたらう。しかし、雪も、大切な何か  
を包みこんで、天から降ってくるに違  
ない。静寂と共に、考える瞬間と、休息  
とを与えてくれる。雪に閉ざされる冬が  
あるからこそ、その次には、目のさめる  
ような、春が来る。緑が日増しに濃くな  
り、田に水が入り、やがて青々とした稲  
がゆれる。その風景を見てみると、何事  
も無く、今年も収穫のときが来るように  
と、ごく自然に、素朴な願いが湧いてく

る。近年、いろいろな意味で、日本人は  
米に冷淡だつたように思う。世界的な食  
糧不足や、自給率の低さから、米の利用  
が言われているが、それは、作ってくれ  
る人があつてこそである。他の作物や、魚  
も然りである。

田舎暮らしとは、四季の移り変わりを  
楽しみ、ゆつたりと、日々を通こすばか  
りでなく、そんな大切なことも、考えさ  
せてくれる。

見渡す限りの、水田をきらめかせて、風  
が吹き渡る。ここに人が住み、田を作り、  
畑を耕すずっと昔から、この風は吹いて  
いたのだろう。義のためにこそ、出陣し  
たという、謙信の時代にも…。そんな事  
を、ふと思つてみる美しい風である。



大竹瑞世さん



板倉区久々野 築100年の古民家